ニュース

佐川急便グループが介護旅行事業に参入

旅行会社が次々と介護旅行サービス事業へ参入し始めた。「トラベルヘルパー」と呼ばれる専門部員が同行するのが特徴で、高齢化社会に向けて今後、ますます需要拡大が見込まれる中、新たなビジネスの柱として期待は大きい。

東京地区中心に 3年後には1億円に

今回新サービスを開始するのは佐川急便グループの佐川アドバンス（本社・大阪府大阪市　遠藤英二社長）。東京地区を皮切りに10月1日よりスタートした。

同社が提供するこのサービスは、専門の訓練を受け資格を備えた「トラベルヘルパー」が同行していくもの。「これにより介護が必要な高齢者や家族が安心して旅行や外出を楽しんでいただくとともに、お客様のご要望にお応えした独自の旅行プランのご提案をさせていただきます」（旅行事業部　後藤雅章課長）。

旅行事業部
後藤雅章氏

トラベルヘルパー、いわゆる外出支援専門員とは、介護保険法のホームヘルパー2級等の介護または看護系の資格と、旅行業法の旅程管理者等の旅行の資格を併せ持つ、介護旅行の専門家のこと。旅行サービスはもちろん、観劇や墓参りなど身近な外出支援のニーズにも対応する。トラベルヘルパーの認定は、内閣府認証NPO法人日本トラベルヘルパー協会（東京都渋谷区　篠塚恭一理事長）が行っている。

同社ではこのトラベルヘルパーを今年度内に4名を養成する。

介護が必要な高齢者の「家族に気兼ねなく旅行に行きたい」、「故郷の墓参りに行きたい」などの旅行や外出への潜在的なニーズは高いものの、現在の旅行サービスではこれらのニーズに応えられていないのが現状だった。そこで同社は旅行事業を30年来手掛けてきた経験とノウハウを活かし、高齢者のニーズ応えられる新しい旅行サービスの開発を検討してきた。

料金は旅行行程費用にトラベルヘルパー費用を合わせた価格に設定する。東京地区を皮切りに、関東圏から順次他地区へとサービスエリアを拡大する予定。

同社はこの新サービスを3年後には売り上げ高1億円を目指していく考えだ。

「既に5～6件のご相談がきており、滑り出しは上々です。今後は介護旅行といえば当社といわれるまでに、ブランド力を高めていきたいと考えています」（後藤課長）。当面はオーダーメイドとなるが、将来的にはプラン旅行としても販売していきたいという。

またこのサービスの一環として、東京地区において大手タクシー事業者のANZEN Group（東京都板橋区）と提携し、トラベルヘルパーがタクシーに同乗し、自宅から東京近郊の日帰り旅行や外出をサポートするサービスも実施する。

トラベルヘルパーによる介護旅行は、あなぶき興産グループのあなぶきトラベル（香川県高松市　藏田徹社長）でも開始しており、すでに社員4名がトラベルヘルパー資格を取得。また、提携先の特別養護老人ホーム岡本荘でも3名がこの養成講座を受講しており、これから旅行と介護が連携した企画を提案していくという。

受け入れ施設への理解求める